

会報

No. **115**

令和元(2019). 10. 1

姫路市立図書館花北分館リニューアル！

姫路市立図書館花北分館 林 裕子

姫路市立図書館花北分館が4月13日にリニューアルオープンしました。これにより、以前は231㎡の小さな分館であった当館は、3倍近くの686.93㎡の床面積を持つ広々とした分館となりました。以前の花北分館は、迷路のような半地下にあり、手狭で利用者がアプローチし辛い構造でした。今回「ミラキタシティ花北」商業施設の2階にリニューアルオープンしたことで、大きなガラス面から光の差し込む開架室が道行く市民の目をひく明るい図書館に生まれ変わりました。



〈姫路市立図書館花北分館の外観〉

入口の前に行くと、「図書館花北分館です。どうぞお入りください。」と音声案内が流れます。入口を入ってすぐ左手には、自動販売機のコーヒーを飲むことができる休憩室があります。そしてICゲートを通ると、明るい開架室が広がります。

まず目に入るのは、姫路市の図書館司書が選書し、ブックリストを作成した年齢別推薦図書コーナーです。

0歳から2歳のよちよち文庫

3歳から5歳のすくすく文庫

1～2年生におすすめの本

3～4年生におすすめの本

5～6年生におすすめの本

中学生におすすめの本

15歳～18歳におすすめの本

というように、年齢別に展示しています。

年齢別推薦図書コーナーの奥には、おはなし室を設けました。以前の小さな花北分館にはおはなし室がありませんでしたが、リニューアルにより待望のおはなし

し室ができたことを、利用者の皆さんが大変喜んでくださっています。

おはなし室ができてからは、定例のおはなし会の参加者も増え、また近くの保育所や幼稚園の訪問回数も多くなっており、園児たちは散歩で図書館を訪れては本を選んで読み、ストーリーテリングを聞いて帰ります。

また、北側には、大きな窓に面した窓際閲覧席があり、学生から高齢者までのあらゆる世代の利用者が、ゆったりと読書を楽しんでおられます。



〈大きな窓に面した明るい閲覧席〉

リニューアルオープン以降の利用統計は、
登録者数 一般7.5倍、児童15.5倍
貸出人数 一般1.7倍、児童2.5倍
貸出冊数 一般1.6倍、児童2.6倍

となっており、毎日沢山の利用者で賑わっています。

新しくなった図書館は、イオン姫路店に隣接しているということもあり、特に土日は家族連れの利用者が増えました。そして、イオン姫路店に来たついでに立ち寄られる播磨圏域連携中枢都市圏内の自治体の方の利用も目立つようになりました。

初めて図書館の存在を知ったというような図書館初心者の方の来館も多く、貸出券の登録や、利用案内などに追われてしまうこともあります。そこで、これから図書館を理解してもらい、正しく楽しく末永く利用してもらえるように、しっかりと利用案内に努めたいと職員一同考えています。

図書館で働くこと

兵庫県立図書館

まえかわ のりえ
前川 範江

私の育った町には図書館がありません。幸い小学校の図書室はいつでも開放されていて、休み時間に本を読みに行ったり、借りに行くことができ、子ども頃は特に不満に思うこともなかったのですが、もし身近に図書館があれば、本を読むのが好きだった私は、きっと喜んで通っていたらなあと思います。高校生になって、進路を考え始めたころ、本と関わる仕事がしたくて司書の資格をとろうと考えました。「図書館」という場所への、なにやら憧れめいた気持ちもあったように思います。

そして今、私は兵庫県立図書館で、毎日65万冊もの本に囲まれて働いています。資料整理から始めて、相互協力、レファレンスと、途中他部署に異動してブランクもありますが、図書館勤務通算15年の間に一通りの業務を担当させていただきました。とはいえ、まだまだ力不足を感じ、反省する場面も多い毎日です。

現在の担当業務はレファレンス。利用者と本を結ぶ仕事です。利用者に満足していただけるよう、これからも日々精進していきたいと思っています。

来フライ~

今が10年前だったらなあ

伊丹市立図書館

よしみ ちなみ
吉見 ちなみ

今年度で定年を迎えます。余裕なく仕事と取り組み、最近になって今まで見えていなかったものが少しばかり見えるようになってきました。この状態が10年前ならと思うこの頃です。

学校図書館と図書館の児童室で子ども達とふれ合い、子ども達をとりまく環境の変化に、司書として何ができるのか、もどかしい日々でした。

「ブックスタート」で4か月の赤ちゃんがにこにこ本を楽しんでいる様子や「おはなし会」でかみなりがでてくる絵本を、食い入るように見ながらそっと両手で自分のおへそをかくしている子ども、アニメーションで大人顔負けの記憶力を発揮する子ども・・・多くの驚きや発見、喜びに支えられてきました。

読書冊数など評価の数字にはあらわれないけれど大事なことをおろそかにすることがないようにと意識してきました。

少しでも子どもと本をつなぐことができるよう、本と子どもが離れることなく歩んでいけるよう、今後できることをしていきたいと思っています。

図書館が、生涯を通じて人々の心のよりどころとなることができるよう願っています。

振り返って、改めて

伊丹市立図書館

おぎの せいこ
荻野 聖子

このたび、永年勤続表彰をいただき恐縮するとともに、ここに勤めてもう20年以上になるのか、と月日の経つことの早さに驚きもしました。振り返れば本当に色々な出来事が思い出されます。阪神・淡路大震災の混乱を乗り越え、新しく分館や分室ができ、パソコンの普及からインターネットサービスを開始、平成24(2012)年には本館が移転して、その規模や年間開館時間が増えました。「Library of the Year 2016」で大賞を受賞したことも記憶に新しいです。私たち司書を取り巻く状況も変わってきました。

そうして現在。ここまでくれば立派に中堅どころといえるでしょうが、実際のところは仲間に助けられることばかりで、まだまだベテラン司書にはほど遠く……。いやいや、頭を抱えてばかりもいられません。表彰までしていただいたからには、気持ちを改め、もっと研鑽を積み、利用者のニーズに応じていけるよう本と人とをつなぐ仕事に励んでいきます。

利用者さんと向き合って、

伊丹市立図書館南分館

ほそみ れいこ
細見 玲子

はや20年。南分館で過ごしてきた、これまでの日々を振り返ってみたいと思います。

南分館配属後、ジュニア図書を任せただけのことに。山田詠美さん『ぼくは勉強ができない』、吉本ばななさん『キッチン』などの図書を新しく設けたジュニアの棚に置き、ジュニア向け図書案内「みなみ風」を作成。それらの本が中高生のみなさんに借りられた時の喜びは、今もよく覚えています。

その後、3度の育児休暇後、赤ちゃん絵本を担当させていただくことに。「赤ちゃん絵本講座」では、まつおかたつひでさん『ぴょーん』、かがくいひろしさん『だるまさんが』など、とっておきの赤ちゃん絵本を紹介。心温まるふれあいの時間を楽しませてもらっています。

この20年、多くの利用者さんや先輩同僚に支えられていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、指定管理者制度による問題や超高齢化社会と向き合いながら、地域のみなさんに親しみを感じてもらえる図書館であるよう努めていきたいと思っています。

ひきつづき
来フライ~

気軽に立ち寄れる居場所づくり

多可町図書館 よりふじ 依藤 けいこ 啓子

今年の3月で図書館は15周年を迎えました。開館当初、下校時刻を過ぎると、子どもたちが一斉に息を切らせながら図書館前の坂を自転車でかけあがり、一気に館内が賑やかになっていたことを思い出します。それから十数年、図書館を取り巻く環境も子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しました。今では子どもたちだけでの来館は減少し、休日に親子連れでというスタイルへと移行しています。当館は立地的に「何かのついでに」という場所にはなく、目的がなければなかなか…というところがあります。ですから、昨年度は伊能忠敬が多可町を歩いたという事実に基づき測量やフォーラムを開催したり、また、クリスマスにはピアノコンサートを開いたりするなど様々な取り組みを行ってきました。

まだまだ、図書館は勉強しに来るところと思われる方もたくさんおられます。用がなくてもこういったイベントがきっかけでふらっと立ち寄り、図書館の便利さを知ってもらえるような仕掛けづくりを、そして、思わぬ本との偶然の出会いを提供できるそんな居場所づくりをと思っています。



一期一会

佐用町立図書館 みずとり 水鳥 やすこ 保子

開館から18年が過ぎ、地域の方々の生活の一部として図書館が利用されるようになってきました。3万冊からのスタートした資料も13万冊を超え、広域での利用や電子図書館のスタートなど図書館を利用いただけることも増えてきました。この間、「人口の割に資料が充実し、郷土資料も抑えている」とお褒めのお言葉をいただいたこともあり、嬉しかったです。

利用者に本を手渡すことを基本に努めてきましたが、勤務してきた中で印象深い事は、10年前の台風9号被害からの再オープンの日でした。多くの方々が待ちわびていらしたことです。そして、幼い頃から図書館に親しんでいる子が、トライやるウィークで図書館を選んで来てくれたことです。私自身も基本に立ち返ることができ、周りのスタッフに支えられてやってこられたことにとっても感謝しています。これからも図書館を楽しんでもらえるように、これまでに研鑽したことを活かし、笑顔で対応していきたいと思っています。

ふれあいを求めて

姫路市立図書館青山分館 なんと 南都 あやこ 綾子

青山分館は姫路市の西部にあり、山々に囲まれた自然豊かな場所にあります。

図書館で仕事を始めて18年が経ちました。まだまだ勉強不足を実感する毎日です。

姫路市には15館の図書館があります。いくつかの分館で経験を積みましたが、地域によって特色が様々です。

分館は地域に密着していて、人との関わりやコミュニケーションが大事だと感じています。機械化が進むことで利便性が向上し、プライバシーが守られる一方で“ふれあい”がなくなるとおっしゃる利用者がいらっしゃいました。図書館でカウンターにいる私たち職員との関係にふれあいを求めている利用者がいたことに驚きました。最近是人と関わるのが希薄になっていることも多く、改めて利用者との会話等を大事にしたいと思いました。

18年経った今、初心にかえり、利用者に気持ちよく図書館を利用していただけるよう“ふれあい”を大事にしながらこれからの業務に取り組みたいと思います。

協会からののお知らせ

全国図書館大会（兵庫大会）
記念事業助成について

令和元年度総会で承認されたとおり、全国図書館大会（兵庫大会）記念事業助成は、剰余金特別会計の予算が96円となったため、一般会計に繰り入れをし、「全国図書館大会剰余金特別会計」を廃止します。

ひきつづき

協会からのお知らせ

表彰者の紹介（敬称略）

永年 前川 範江（県立）
荻野 聖子（伊丹）
吉見ちなみ（伊丹）
細見 玲子（伊丹）
依藤 啓子（多可）
南都 綾子（姫路）
水鳥 保子（佐用）

令和元年度役員紹介（敬称略）

会 長 岡田由美子（県立）
副会長 井上勝文（県立） 長谷川達也（神戸）
丸尾恵子（芦屋） 小浦慎治（加古川）
理 事 北 裕幸（西宮） 長谷川明子（稲美）
谷川善彦（姫路） 片岡利夫（たつの）
細見正敏（丹波） 上田健治（豊岡）
谷 博志（淡路） 山下裕司（県議会）
監 事 安福真理子（尼崎） 番匠真由美（相生）

令和元年度予算

（単位：円）

〈一般会計〉

事務局費	112,000
事業費	499,000
事業特別会計費	100,000
全公図分担金	42,000
予備費	269,910

〈全国図書館大会剰余金特別会計〉

兵庫県図書館協会会計繰入	96
--------------	----

〈市町間相互貸借事業特別会計〉

委託費	500,793
通信連絡費	1,580
消耗品費	400

令和元年度 地区別研修会（今後の予定）

- 神戸・阪神地区
「来館者への接遇とクレーム対応」／伊丹市立図書館／12月11日（水）
- 東播磨地区
「超高齢社会と図書館」／兵庫県立図書館／10月11日（金）

○西播磨地区

「ブックトーク実践講座」／たつの市立総合文化会館アクアホール／11月8日（金）

○但馬・丹波地区

「高齢者への図書館サービス」／和田山ジュピターホール／11月19日（火）

○淡路地区

「効果的な広報」／洲本市立洲本図書館／9月27日（金）

令和元年度の大会・研究集会（今後の予定）

○第105回全国図書館大会

「令和の新時代を拓く図書館 ～常若（とこわか）のくにからの発信～」／11月21日（木）、22日（金）／三重県総合文化センター

○全国公共図書館研究集会

・サービス部門及び総合・経営部門
12月12日（木）、13日（金）／千葉市生涯学習センターホール

・児童・青少年部門

「子どもとともに読書のよろこびを分かち合おう」／11月28日（木）、29日（金）／島根県民会館

○近畿公共図書館協議会研究集会

「地域を創る文化資本としての図書館」／12月26日（木）／大阪府立中央図書館

○文科省・図書館地区別研修（近畿地区）

令和2年1月28日（火）～31日（金）／京都市勧業館みやこめっせ・京都府立図書館

兵庫県図書館協会会報 No.115

令和元（2019）年10月1日 発行

編集・発行：兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500